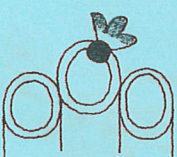


# 西本章議会報告

福山市議会  
市民連合

2024年  
1月1日  
NO. 79

編集 西本章後援会事務所  
福山市引野町一〇五二二二  
TEL 〇八四(九二二六)五四四一  
FAX 〇八四(九二二三)五二二二



あけまして  
おめでとうござります



新しい年はどのように迎えられるでしょうか。  
今年一年がみなさまにとって充実し、希望に満ちた良い年になることを願っています。

## 全国的政治経済社会状況

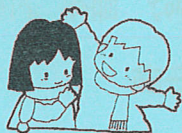
国民からの支持が得られず、前代未聞の内閣低支持率の岸田内閣は、その場しのぎの内閣改造をこなしたものの、政治資金パーティー券のキックバック(裏金疑惑)に端を発した政治不信は深まるばかりです。しかし、その中でも市民の暮らしは綿々と続いています。政治状況は安定しませんが、よりよい暮らしのために自分の位置で頑張ります。

## 12月議会から

### 市長の総体説明

#### (生活支援・子育て支援について)

まず、原油価格・物価高騰対策については、国の総合経済対策を踏まえ、住民税非課税世帯を対象とした新たな給付金の支給に向けて準備を進めており、物価高から市民生活を守るため、年内に届けられるようスピード感を持って取り組んでいきたい。また、これに加え、市民や事業者に対する支援についても現在検討しており、まとめ次第、今議会に追加提案していきたい。



次に、ネウボラについては、子ども施策を総合的かつ一体的に進める指針となる国の「ことも大綱」が年内に示される。これを受け、市では子育て世帯が率直に思いを語り合う場を設け、生の声を次期ネウボラ事業計画に反映させ、オール福山で子どもや子育て世帯を支えていく体制づくりに努める。

また、備後圏域における保育所等の広域利用や、病児・病後保育についても、新年度からの実施をめざす。さらに、休日保育の広域利用についても、実施実験を実施し、引き続き、保護者の負担の更なる軽減に取り組む。

## 12月議会 私の一般質問から

今回の12月議会では4項目の質問をしました。まず、平和行政・平和教育については、ウクライナ、パレスチナの戦争を早く停戦させるために、市としての動きを求めましたが、残念ながら具体的な取り組みの提案はありませんでした。また、学校教育での平和教育の重要性についても質問しました。教育の基本に人権教育、平和教育に置くよう求めました。福山市内の高校生が今年も高校生平和大使に選ばれていることにも触れ、国連軍縮総合や核兵器禁止条約締結国会議に参加した福山市の平和大使の経験者に、その体験を福山で話す機会を持つことを要望しました。

また、医療的ケア児への取り組み、地域公共交通の活性化、読書バリアフリー法の取り組みについても質問しました。詳しくは同封の「市民連合」に掲載しています。

## \* 予算特別委員会から 西本質問分 \*

◎価格高騰重点支援給付金給付事業費(一世帯7万円の支給)は、国の総合経済対策を踏まえて、物価高から市民生活や事業者を守るために、住民税非課税世帯を対象とした給付金の給付など、市民や事業者に対して支援するもので、福山市では年内の支給にむけてスーパーマッシュ方式で取り組まれます。(スーパーマッシュ方式とは、給付対象世帯のうち、前回給付金給付時と世帯状況に変更がない世帯に、振込口座、振込日等記載したシールはがきを送付し、返送いただくことなく支給するもの)▼

◎生活・学習支援等業務委託は、経済的課題を抱えるひとり親家庭・生活困窮家庭の子どもの進学を後押しするため、生活・学習支援事業を拡充して実施するもので、補正予算の債務負担行為として1億402万円が計上されました。

今年度は120人の中学生が市内7カ所(家庭を1と数える6カ所)での学習を中心に行われてきました。

今回の補正では、これまでの9月開始から学年始めの4月開始への変更、新年度より対象を高校生まで拡大すること、食事(パン・飲み物)の提供や、長期休暇中には回数増加(週1回→週3回)等実施されます。対象人数も30人(26倍)と大幅増になり、予算面でも今年度予算(1300万円)の8倍(1億402万円)になります。



## 市民連合で意見書提出

ウクライナに続き戦禍が拡がり、市民の犠牲が多く出ている現状の中で、今私たちにできることとして12月議会に「パレスチナ情勢に関する意見書」を市民連合で提出し、全会一致で意見書は採択されました。国への要望として、ただちに停戦を求めること、停戦に至るまで人道危機に直面する人々の生活を守るよう求めることなどを強く求めました。

従来の「子ども議会」「高校生議会」「夢・未来プロジェクト」の3事業を統合し受け継ぐ形で、「福山夢・未来プロジェクト」が小学5年生から高校生3年生までの選ばれたプロジェクトメンバーと、私を含めた市議会常任委員会総務委員会のメンバー10人が参加して開催されました。

最初に全員で議会の仕組みなどの学習をし、その後議員は2人ずつ5つのグループに分かれて、質問・意見交換を行いました。

私が参加したグループでは、議員の日常生活についてや、若い人たちの声はどう生かすのかといった質問も出されました。議員提案で実現した「福山市子ども及び妊婦を産後喫煙から守る条例」についてなどの話をしました。

参加された小学生・中学生・高校生からは積極的に質問が出され有意義な会になりました。

## 福山夢・未来開花プロジェクト

(11月18日)に参加して



# 最近の新聞よみ

## 第42回全国中学生人権作文コンテスト広島県大会

12.7.中国

第42回全国中学生人権作文コンテスト広島県大会（広島法務局、県人権擁護委員連合会主催、県教委、中国新聞社など後援）の入賞作品19点が決まった。県内198校から1万1300点の応募があった。最優秀賞2点のうち県人権擁護委員連合会賞に選ばれた福山市・誠之中2年の黒田悠成さん(14)の作品を紹介する。

目に見える障がい、目に見えない障がい。世の中には、その旨を伝えたりする毎朝の儀式。そのたびに、ハガスターなどは、たまに助で思わせることがある。なかなか口から出てくれない

を差のべる人が正義で、そうでない人が悪であるという印象をつけるものがある。そこで私は、ちょっとまとまり悪いのである。

のである。たしかに、吃音は、話すときはじめの音がつまったり連続してしまつたことを指す。個人差はあるが、私は三才ころから症状がではじめた。三才から今までの十年と少し、毎日吃音つき合ってきた。不便なことも多い。不便な例としてよく挙げられるのは、皆さんも知ってであろう朝の健康観察である。名前

を呼ばれて、ハトと返事をものである。吃音の性質として、一緒に言つとスムーズに話せるというものがあしてほしくないのは、障がいをもつ人のサポートをするかあるが私の場合、食べるの症状がほとんどでなく

### 最優秀賞 県人権擁護委員連合会会長賞

## 「見まもるといふ選択」

福山市・誠之中2年 黒田悠成さん

がいをもつ人のサポートをなす。ならばせうしても、さる人は本当に尊敬する。つかえつかえでも自分でできたという喜びが何事に代えがたいものだから、助けるだけが配慮ではない。強くなっている。もしそのときに、今回は吃音、思いがけつときがきたら、生かしたい。チャンスがあれば自分できたいという経験を相手にさすたい。その喜びを、僕は知っているから、

私は今まで吃音のために、つまつといふものである。一つがこの作文のテーマのため、ルールがあり、守られた人も多くいると思う。そして、店員さんを守るためのルールがあり、そのかあるカフエというものである。接客する人は吃音症の人で、その人達に元気づけてはならないことだ。障がいのある人への温かい配慮と呼ぶのであれば一体、いつでに私が良いと思つた取り組を紹介したい。

ある。そして実際にそれは感じる。生きる希望を見い取り組まれているようだ。自分のできる事をするといつたもので、近年ではそれが広く行われていると思う。

